

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況(学運協委員からの意見)

(1) 確かな学力の育成

重点目標	・学んだ知識を生きる知恵として主体的に活用し、問題解決に取り組む児童の育成 ・問題解決力の育成
評価項目(目標とする成果・指標 %)	自己評価(現状の分析と改善策)
SDGsを踏まえたESDの充実を図り「めあてと見通し」「自力解決と学び合い」「まとめと振り返り」等の学習過程を重視し、問題解決の流れを明確にした学習活動を展開する。(80%)	児童が積極的に自らの考えを発表し合い、響き合う学習を実践している。自分事として考えている6年生のESDが、学校全体に広がる活動となることを期待している。
<p>○国連からの連絡は名誉に値します。</p> <p>○非常に意欲的に学び、ワクワクしながら探究している姿が素晴らしい。子どもたちの疑問や探究心にとことん寄り添ってくれる授業のおかげだと感じる。自分の毎日の生活の中でどのように ESD を実践することができるか、他学年への発表などがあると学校全体でもっと取り組んでいけるのではと思う。</p> <p>○児童が自分の考えを積極的に発信していると思う。しかし、人によって向き不向きがあり全員ができていない。</p> <p>○6年生での集大成となる活動は大いに評価に値する。反面、他学年での活動がやや単発的に感じられる。6年間を通して系統的かつ持続的に学べる工夫を期待したい。</p> <p>○持続可能な教育を継続するために、児童一人一人が関心と興味をもち、その上で好奇心をもつ教育が必要。児童・生徒が好奇心をもつことは学びの原点である。</p> <p>○児童が積極的に発表し、校外学習で興味を深めて努力できるとよい。</p>	
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善に取り組み、児童の基礎的な知識・技能と探究する力を育成する。(80%)	全国調査結果では、個別最適な学びについては、肯定的回答が9割で、A回答は2割であった。協働的な学びについては、肯定的回答が9割で、A回答は5割であった。さらなる授業改善に努めていく。
<p>○学校全体で一丸となって児童の指導に当たっていた。様々な特性をもっている子どもたち一人一人に丁寧に対応し、信頼関係を築きつつ授業をすすめていたと思う。地域との協働は、様々な人の様々な話を聞くことで子どもたちに新たな視点を提供し、多面的に物事を考えるよい機会になったと思う。</p> <p>○グループでの意見の出し合いで、他者の考えも認められるようになってきていると思う。</p> <p>○少人数かつ高学年での教科担任制が、きめ細やかに行き届いた学びにつながっているのかと考える。次年度以降もその影響や効果について注視していきたい。</p> <p>○子供同士の会話を通して、基礎的な知識を習得させる環境が必要。</p> <p>○個人のレベルアップは、できる・分かる人に教えてもらう。</p>	
家庭や地域の教育力、各関係団体、大学等と連携して、様々な体験活動を取り入れ、学習活動の一層の充実を図ることにより、児童の興味・関心や学びに向かう力を高める。(80%)	主権者教育や租税教室、薬物乱用防止教室等の出前授業、稲の栽培等の体験学習、工場や市場、公園や施設等への校外学習を数多く取り入れることにより、子供たちの興味・関心を高めることができています。
<p>○教科担任制の忙しいスケジュールの中で、本当に様々な体験を盛り込んでいただいた。ワクワクする回数が多かったおかげか、子どもたちがいつも楽しそうだと感じた。</p> <p>○様々な出前授業を行い、児童それぞれの得意分野も伸ばせている。</p> <p>○今年度は多種多様な体験型の学びの機会が設けられていたので、次年度も継続して欲しい。なお、太鼓の分野では青陵中学校や永山高校との交流も有意義ではないかと考えている</p> <p>○他団体との連携や地域とのコミュニケーションは新しい発見の場である。社会資源の見学を通して子供の成長が期待できる。</p> <p>○地域連携をして、様々な体験を取り入れ、連携することです。</p>	

(2) 豊かな心の育成

<p>重点目標</p>	<p>・優しさと寛容の心を持ち、互いの人権を尊重する児童の育成 ・人間関係調整力の育成</p>
<p>評価項目(目標とする成果・指標 %)</p>	<p>自己評価(現状の分析と改善策)</p>
<p>人として尊重され、互いを大切にしよう豊かな人間関係を構築するために、人権教育の一層の充実を図るとともに、不登校対策の徹底、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、解決に向けた組織的対応力を強化する。(80%)</p>	<p>いじめ対策委員会において共通理解を深め、アンケートにより児童の声なき声に耳を傾けている。新たな居場所として学童と連携した「さぼうとろうむ」を設置し、心に寄り添う肯定的な関わりと学校の居心地感を向上させている。</p>
<p>○新たに「さぼうとろうむ」を設置し、子どもたちにより関われる仕組みを作っている。さらに学童クラブという地域力も活用している視点が素晴らしい。 ○子どもの居場所が増えたのは非常にありがたく素晴らしいと思う。「いつものメンバー」以外の子どもももっと使ってもらってほしい。 ○不登校や登校渋りの児童が増える中、いろいろな選択肢を増やして子どもの居場所を作っており、とても良いことだと思う。 ○迅速な「さぼうとろうむ」の設置は評価に値する。ただし、その運営、利用状況などは定期的に検証・見直し、時には児童自身の声も取り入れて、常に安心安全な場所であって欲しい。特にパテーションや机・椅子の配置は工夫が必要であると思う。 ○児童・生徒の成長は遊びを通して育むことができる。友達とぶつかり合いながら違う意見にも素直に耳を傾ける心を養う意識付けが必要。 ○いろいろな声に耳を傾け、新たな居場所としてチャレンジし続けること。</p>	<p>○先生方による個別の寄り添いや楽しい体験の増加など、自分の心が満たされているので他者や地域へ目が向くようになるのだと思う。そこから自尊感情を向上させ、自信をもって自発的に学校や地域全体を盛り上げていく存在になってもらいたい。 ○他者を思いやる気持ちが大切との認識が、学年が上がる毎に強くなっている。 ○体育や課外授業を行う中で、ルールの遵守、相手を思いやる心を養成する機会を増やすことが必要。</p>
<p>体験学習や道徳教育による心の教育を充実させ、児童の情緒の安定を図り、健全育成に努める。(80%)</p>	<p>全国調査結果では、「生活の中で幸せな気持ちになる」「地域や社会をよくしたい」共に肯定的回答は9割前後であり、今後も思いやりの心を大切にできるようにさせていく。</p>
<p>学級経営の充実や異年齢児童との活動、地域との交流を通して、他者を理解し尊重する心を育むとともに、温かい人間関係を構築し、誰もが安心して過ごせる学校をつくる。(80%)</p>	<p>全国調査結果では、「人が困っているときに助ける」「人の役に立つ人間になりたい」共に肯定的回答は100%であり、今後もすべての子供が安心できる学校をつくっていく。</p>
<p>○縦割り班活動はぜひ続けてもらいたい。地域との交流の中で、自分たちが「支えられている」だけではなく自分たちも「支える」側との認識をより深めてもらいたい。地域の大人への話し方や態度などで他者を尊重する気持ちをより成長してもらえたらと感じる。 ○学校の中だけでなく地域とのつながりでたくさん学んでいる。 ○学校の話をする子どもたちはみんな笑顔です。悩みを語ることもありますが多くは時間がかからず解決しているようです。やさしい声かけができる上級生のモデルがあるのが低学年にとって良い状況だと感じています。 ○地域の交流を通して、子供たちができる役割を分担する機会を増やすことを考えることも必要。 ○豊かな心、心に思うこと、子供が安心できる、学校と共に地域で見守る。</p>	<p>○縦割り班活動はぜひ続けてもらいたい。地域との交流の中で、自分たちが「支えられている」だけではなく自分たちも「支える」側との認識をより深めてもらいたい。地域の大人への話し方や態度などで他者を尊重する気持ちをより成長してもらえたらと感じる。 ○学校の中だけでなく地域とのつながりでたくさん学んでいる。 ○学校の話をする子どもたちはみんな笑顔です。悩みを語ることもありますが多くは時間がかからず解決しているようです。やさしい声かけができる上級生のモデルがあるのが低学年にとって良い状況だと感じています。 ○地域の交流を通して、子供たちができる役割を分担する機会を増やすことを考えることも必要。 ○豊かな心、心に思うこと、子供が安心できる、学校と共に地域で見守る。</p>

(3) 健やかな体の育成

重点目標	・健康な心と体を持ち、挑戦し、やり遂げる児童の育成 ・実践力の育成
評価項目(目標とする成果・指標 %)	自己評価(現状の分析と改善策)
体育授業の充実、一校一取組等を通して、体力向上に取り組むとともに、運動に親しみ、粘り強く取り組む態度を養う。(80%)	体力調査等の結果を効果的に活用した体育科授業の改善を図り、前年度の自分の記録を更新できるような個人目標値を設定させた。
○苦手な課題でも諦めずに努力している様子がみられる。 ○体力の維持・向上は、運動、栄養、休養を基本とし、それぞれに目標を設定し、達成感を醸成することが必要。 ○個人目標をもたせ、チャレンジさせることが大切です。	
児童集会や休み時間等を効果的に活用し、体育的活動、異学年交流を生かした遠足や遊び等に取り組む、体を動かす楽しさを味わわせるとともに運動習慣の定着を図る。(80%)	縄跳び週間やペースランニング週間、わくわくチャレンジタイム等を実施するに当たって、子供たちには目当てを立てさせ、楽しく運動ができるような取組みを行っている。
○運動が苦手な児童の心中を把握するのは困難と考える。 ○独自のイベントや集会が定着して、子どもたちの楽しみにもなり、先の見通しや目標を見付けられているようだ。 ○個々の得意、不得意に挑戦する勇気を養成し、達成する喜びを育む。 ○健康な心と体は、児童と共に挑戦していく。	
食育を推進し、給食や家庭での食生活を振り返り、健康に生活する態度を育成する。(80%)	栄養教諭を積極的に活用して食育の推進を図り、自分の健康を考え、望ましい食習慣を身に付けさせている。
○家庭での食育は難しい家もあり課題が残る。 ○育ち盛りの児童には、栄養のバランスを考慮することが必要。	

(4) 家庭や地域との連携

<p>重点目標</p>	<p>・地域を愛し、地域社会の一員としての自覚ある児童の育成 ・コミュニティ・スクールとして、家庭や地域との連携 ・学校の教育活動や地域行事における交流を通して、開かれた学校づくりの推進</p>
<p>評価項目(目標とする成果・指標 %)</p>	<p>自己評価(現状の分析と改善策)</p>
<p>地域の人材や自然環境等を生かした教育を推進し、地域を大切に思う心を培うとともに、地域の中で互いに協力し合って生活し、地域社会に参画する態度を養う。(80%)</p>	<p>地域学校協働活動推進員の尽力により、地域の人材を積極的に活用できた。今後も、校外での学習を推進し、地域を知ることから、地域に関する学びの充実を図っていく。</p>
<p>○地域の人材発掘が難しい。 ○花壇の整備や校内の木々の剪定など、地域の方に「してもらう」だけでなく「一緒に取り組む」活動へと展開していければ、なお充実した学びになると考える。 ○児童・生徒の育成は、学校教育と地域とのかかわりが影響する。 ○子供の声を実際に聞いて、学運協で話ができるとういと思います。</p>	
<p>保護者や地域社会、近隣の幼稚園・保育園や中学校等、地域と連携した学校づくりを推進する。(80%)</p>	<p>小中連携活動として、中学校の授業を参観したり、共通の課題についての検討会を行ったりしている。</p>
<p>○同じ中学に行く永山小とのつながりがあればより良いと思う。 ○就学前の幼児との交流で思い遣りや自分の立場を知り、これから行く中学校での様子を知ること、不安が少し減少すると思う。 ○瓜生小と多摩永山中の連携は従来通り進めると同時に、今後は同じ中学校に通うことになる永山小との連携も推進して欲しい。例えば、お互いの運動会や作品展を見学したり、どんど焼きに招待したり、小学校のうちから交流を深めることは有意義であると考えている。</p>	
<p>他者と連携・協働及び合意形成しながら、社会の一員として地域の課題解決に主体的に関わることができる児童を育成する。(80%)</p>	<p>避難所訓練や夢灯り、どんど焼き、地域運動会、子供会行事等の地域行事、ボランティア活動に主体的に参加する児童が多くみられている。</p>
<p>○瓜生太鼓をメインに地域の活動に子どもたちが積極的に参加できる機会を多く設けて、子どもたちが地域活動に主体的に参加している。 ○押し付けになっていないか、自分を客観視できない。 ○「してもらう」だけではなく自発的に参加・協力する姿勢がより増えればと思う。 ○たくさんの児童が積極的に参加して、地域の一員となっている ○自治会等の行う行事に参加、役割を分担することにより、地域への愛着を醸成させていく。地域の連携は、児童・生徒を地域の一員として認め合うことにより、防犯・防災の効果も期待できる。 ○地域の行事に参加し、地域を知ること、児童が多くみられるようになってきている。地域の人材、ボランティア活動に参加、児童の育成。</p>	